



○ 省略ことば

前号でこのことについて記述しましたが、もう少し続けたくなくなったのでつれづれに書いてみます。私が省略ことばについて少しこだわるようになったのは、だいぶ前になりますが作曲家であり、エッセイストであった團伊玖磨氏の「パイプのけむり」という随筆集を読んだことからです。その本は今手元にないので具体的な紹介はできませんが、私の印象に強く残っています。安易に省略したことばは日本語として美しくないというような内容だったと記憶しています。それからというもの、私自身それほど美しい日本語を遣っているわけではありませんが、省略ことばにはときどき気持ちが引っかかってしまいます。これから記述する内容は須内個人が感じていることですので一般的な良し悪しを判断しているのではないことを申し添えておきます。

前回紹介した「職専免」は公立学校を退職してから使う回数が減りましたが、今でも使おうとすると一瞬“構えて”しまいます。CS（コミュニティ・スクール）はそれほどには一般に浸透していないと思いますが、主に山口県の小中学校では今や「常識」です。保護者や地域の方に説明をするときに「コムスク」と省略することがありますが、私は使いたくありません。マスコミのテレビ番組で「連ドラ」ということばがよく出てきます。「連続ドラマ」かつては「連続テレビ小説」などと言っていたように思います。私はこのことばを使うことはほぼありませんし私に話しかけてくる人が話題に出すこともほぼありませんので、よくも悪くも感じていません。しかし、勤務時間の関係でかつては見るができなかったドラマも、今はときどき「ひよっこ」（NHK BS）を見てから出勤することが多くなりました。私も「連ドラ」を使い始めるかもしれません。

省略ことばを意識してしまうと言いましたが、気づかずにすでに使っているものもたくさんありますね。思い出してみます。「高校」＝「高等学校」、「入試」＝「入学試験」、「プレゼン」＝「プレゼンテーション」少し前なら「ラジカセ」＝「ラジオカセットテープレコーダー」、このたよりの中にも「マスコミ」＝「マスコミュニケーション」、「テレビ」＝「テレビジョン」などを挙げる事ができました。

ついでに「実は略語だった意外な言葉ランキング”goo ランキング”を検索してみました。その中で次のものを紹介したいと思います。

1位「ボールペン」＝「ボールポイントペン」

2位「食パン」＝「主食用パン」

3位「教科書」＝「教科用図書」

5位「切手」＝「切符手形」

9位「ワリカン」＝「割前勘定」

「軍手」＝「軍用手袋」

「教科書」は知っていましたが、後はビックリが多いです。「軍手」は今後も生きていくことばなのでしょうが、これに変わることばが出てくるのでしょうか？現在あまりにも一般的に使われているのでしょうか。

余談：今回「つかう」ということばをよく使いました。

「使う」と「遣う」を使いましたが、どんなものでしょう？



世界最初の切手



上図はすべて Wikipedia から